

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月12日

【四半期会計期間】 第72期第3四半期(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

【会社名】 ケイヒン株式会社

【英訳名】 THE KEIHIN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大津育敬

【本店の所在の場所】 東京都港区海岸3丁目4番20号

【電話番号】 03 - 3456 - 7825 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 荒井正俊

【最寄りの連絡場所】 東京都港区海岸3丁目4番20号

【電話番号】 03 - 3456 - 7825 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 荒井正俊

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
ケイヒン株式会社(横浜地区)  
(神奈川県横浜市鶴見区大黒埠頭15番地2)  
ケイヒン株式会社(名古屋地区)  
(愛知県名古屋市中川区玉船町2丁目1番地)  
ケイヒン株式会社(大阪地区)  
(大阪府大阪市北区大淀南1丁目5番1号)  
ケイヒン株式会社(神戸地区)  
(兵庫県神戸市中央区小野浜町11番47号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第3四半期 連結累計期間	第72期 第3四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	34,360	38,271	45,465
経常利益 (百万円)	1,152	1,499	1,369
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	914	1,019	1,141
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,606	669	1,380
純資産額 (百万円)	16,936	17,053	16,709
総資産額 (百万円)	43,794	42,170	42,630
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	140.02	156.08	174.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.7	40.4	39.2

回次	第71期 第3四半期 連結会計期間	第72期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	52.43	97.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成29年10月1日付で、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行ったため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）のわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中、個人消費は持ち直し、生産や輸出も増加する等、緩やかな回復基調となりました。

このような環境の中、当社グループにおいては、倉庫保管等の国内貨物の取扱いが堅調に推移し、複合一貫輸送、輸出車両の海上輸送、プロジェクト貨物、港湾作業の取扱いも増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は382億7千1百万円（前年同期比39億1千万円の増収、11.4%増）、営業利益は13億8千6百万円（前年同期比2億2千4百万円の増益、19.3%増）、経常利益は14億9千9百万円（前年同期比3億4千6百万円の増益、30.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億1千9百万円（前年同期比1億4百万円の増益、11.5%増）となりました。

当社グループのセグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### 国内物流事業

国内物流事業におきましては、倉庫業は、化学品等の保管が増加したことにより、売上高は48億2千8百万円（前年同期比1.1%増）、流通加工業および陸上運送業は、料金を一部見直したこともあり、売上高はそれぞれ47億8千6百万円（前年同期比7.4%増）、133億6千7百万円（前年同期比13.6%増）となりました。

以上の結果、国内物流事業の売上高は235億7千5百万円（前年同期比19億7千6百万円の増収、9.1%増）、営業利益は16億8千4百万円（前年同期比3千3百万円の増益、2.0%増）となりました。

#### 国際物流事業

国際物流事業におきましては、国際運送取扱業は、複合一貫輸送、輸出車両の海上輸送、プロジェクト貨物の取扱いが増加し、売上高は127億8千1百万円（前年同期比14.9%増）、港湾作業は、船内荷役・沿岸荷役とも増加し、売上高は18億7千7百万円（前年同期比9.0%増）、航空運送取扱業は、輸入貨物の取扱いが減少しましたが、輸出貨物の取扱いが増加し、売上高は8億4百万円（前年同期比13.4%増）となりました。

以上の結果、国際物流事業の売上高は154億6千2百万円（前年同期比19億4百万円の増収、14.0%増）、営業利益は売上増および固定費の削減により、8億1千2百万円（前年同期比1億9千3百万円の増益、31.3%増）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金が減少したほか、株式相場低下による時価の下落により投資有価証券が減少したことや減価償却に伴い有形固定資産が減少したこと等により、前連結会計年度末比4億5千9百万円減の421億7千万円となりました。

負債合計は、営業未払金の増加がありましたが、借入金の減少等により前連結会計年度末比8億3百万円減の251億1千7百万円となりました。

また、純資産合計は、その他の包括利益累計額の減少がありましたが、利益剰余金の増加により、前連結会計年度末比3億4千3百万円増の170億5千3百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は、「財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」を定めており、その内容は次のとおりです。

当社は、株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えます。したがって、当社の財務及び事業の方針の決定を支配することが可能な量の株式を取得する買付提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様のご意思に委ねられるべきものと考えます。

しかし、株式の大規模買付行為の中には、買収の目的や買収後の経営方針等に鑑み、企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないものなど、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることにはならないものも存在します。当社は、このような不適切な大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当ではないと考えます。

そのような大規模買付行為を行おうとする者に対しては、情報開示を積極的に求め、当社取締役会の判断、意見などとともに公表するなど、株主の皆様が適切な判断を行うための情報と時間の確保に努めるとともに、必要に応じて、会社法その他関係法令の許容する範囲内において適切な対応をまいります。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,800,000
計	24,800,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,536,445	6,536,445	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	6,536,445	6,536,445		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年12月31日		6,536		5,376		3,689

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 7,200		
完全議決権株式（その他）	普通株式 6,518,500	65,185	
単元未満株式	普通株式 10,745		
発行済株式総数	6,536,445		
総株主の議決権		65,185	

(注) 1 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式100株（議決権1個）が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己保有株式9株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
（自己保有株式） ケイヒン株式会社	東京都港区海岸3丁目4-20	7,200		7,200	0.11
合計		7,200		7,200	0.11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となりました。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,272	2,575
受取手形及び営業未収金	5,701	6,463
電子記録債権	196	276
その他	940	1,346
貸倒引当金	8	6
流動資産合計	10,103	10,655
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	46,040	46,285
減価償却累計額	31,216	32,052
建物及び構築物(純額)	14,824	14,233
機械装置及び運搬具	3,251	3,313
減価償却累計額	2,103	2,252
機械装置及び運搬具(純額)	1,148	1,061
工具、器具及び備品	2,776	2,952
減価償却累計額	2,443	2,536
工具、器具及び備品(純額)	333	415
土地	6,809	6,809
リース資産	862	968
減価償却累計額	386	432
リース資産(純額)	476	535
建設仮勘定	347	525
有形固定資産合計	23,939	23,580
<b>無形固定資産</b>		
借地権	977	977
その他	587	575
無形固定資産合計	1,564	1,552
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	5,820	5,205
繰延税金資産	181	151
その他	998	1,006
貸倒引当金	31	31
投資その他の資産合計	6,969	6,332
固定資産合計	32,473	31,465
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	54	49
繰延資産合計	54	49
資産合計	42,630	42,170



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	4,223	5,154
短期借入金	4,879	5,057
1年内償還予定の社債	1,000	500
リース債務	140	158
未払法人税等	274	274
その他	1,770	1,518
流動負債合計	12,288	12,664
固定負債		
社債	3,500	3,500
長期借入金	5,557	4,626
リース債務	378	426
繰延税金負債	282	95
役員退職慰労引当金	831	866
退職給付に係る負債	2,677	2,536
その他	403	400
固定負債合計	13,631	12,453
負債合計	25,920	25,117
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,376	5,376
資本剰余金	4,415	4,415
利益剰余金	5,890	6,583
自己株式	13	13
株主資本合計	15,669	16,361
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,415	1,070
繰延ヘッジ損益	2	-
為替換算調整勘定	202	253
退職給付に係る調整累計額	169	125
その他の包括利益累計額合計	1,040	691
純資産合計	16,709	17,053
負債純資産合計	42,630	42,170

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	34,360	38,271
売上原価	31,753	35,467
売上総利益	2,607	2,804
一般管理費	1,444	1,417
営業利益	1,162	1,386
営業外収益		
受取利息及び配当金	155	198
その他	21	40
営業外収益合計	176	239
営業外費用		
支払利息	140	110
その他	45	17
営業外費用合計	186	127
経常利益	1,152	1,499
特別利益		
固定資産売却益	85	0
投資有価証券売却益	9	-
特別利益合計	94	0
特別損失		
固定資産処分損	9	2
減損損失	15	-
特別損失合計	25	2
税金等調整前四半期純利益	1,222	1,496
法人税、住民税及び事業税	291	413
法人税等調整額	16	64
法人税等合計	308	477
四半期純利益	914	1,019
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	914	1,019

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	914	1,019
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	716	344
繰延ヘッジ損益	-	2
為替換算調整勘定	44	50
退職給付に係る調整額	19	44
その他の包括利益合計	691	349
四半期包括利益	1,606	669
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,606	669
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成してありません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	1,358百万円	1,362百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月23日 取締役会	普通株式	326	5.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額については、平成29年10月1日付で実施した株式併合は加味してありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月23日 取締役会	普通株式	326	50.0	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)  
 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内物流事業	国際物流事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,906	13,454	34,360	-	34,360
セグメント間の内部売上高 又は振替高	692	104	796	796	-
計	21,599	13,558	35,157	796	34,360
セグメント利益	1,650	618	2,269	1,107	1,162

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,107百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用 1,107百万円であります。全社費用は、主として報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内物流事業	国際物流事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	22,918	15,353	38,271	-	38,271
セグメント間の内部売上高 又は振替高	657	109	766	766	-
計	23,575	15,462	39,038	766	38,271
セグメント利益	1,684	812	2,497	1,110	1,386

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,110百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用 1,110百万円であります。全社費用は、主として報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	140.02円	156.08円
( 算定上の基礎 )		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 ( 百万円 )	914	1,019
普通株主に帰属しない金額 ( 百万円 )	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額 ( 百万円 )	914	1,019
普通株式の期中平均株式数 ( 千株 )	6,529	6,529

- ( 注 ) 1 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。  
 2 当社は、平成29年10月 1 日付で普通株式10株につき 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月8日

ケイヒン株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 海野隆善 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齋藤克宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイヒン株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイヒン株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。